

87.7%

救急車応需率

測定値の定義・計算方法

Process

分子：

救急搬送受け入れ台数

分母：

救急車受入要請（搬送先相談を含む）

活動のきっかけ

救命救急センターとしての機能評価に通じるため評価が必要である。救急車を応需するためには、救急科の機能のみではなく、病院としての病床確保や専科、または看護師等の医療資源に大きく寄与するところである。応需について調査の契機に改善できることを検討する。

改善活動部門

- 救急集中治療部
- 救命救急センター
- 総務課
- 災害救急情報管理室

考察

上手くいったこと	課題と感じたこと
救急車応需率は病院全体の救急患者受け入れの指標となる。当院で応需すべき救急症例を確実に応需することを目標に、救急車お断り記入用紙の改訂を実施。お断りした日付・時間・症状・お断りの理由を明確化し、救命救急センタースタッフ医師・看護師へ毎週火曜日に集計し、応需率、お断りした内容の共有を実施している。現在、週平均90%以上の応需ができている。	お断り記入用紙の記入漏れがあると、正確な応需率が収集できないため、スタッフ医師・看護師への周知が要件となる。